立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
振替口座東京7085
電話 (92) 3121―6
内線 71
編集兼印刷発行人
野口定男
毎月廿日発行

会告

本号を第一二〇号号外として、松下新総長就任その他の人事関係特集号といたします。（一部五円）

立教大学新聞学会

新総長抱負を語る

本紙と一問一答

差別を超えた愛を

先入観念を固守せぬ学生に

我々は新総長に松下正寿氏を迎えたが、果して我々の新総長は如何に考え如何なる理想を持っているのであろうか。又それらを立教発展のため、如何に生かし、行っていこうとしているのであろうか。本会は、全学生の意志を代表し信濃町の新総長松下正寿氏宅に、本会今村委員長との一問一答を行った。（写真は松下正寿新総長）

【建学の精神を具体化する方策如何】

立教大学は基督教に基く教育を施す使命を持っている。というのは学問と宗教を混同する事ではない。学問はその本質上「差別化」の傾向を持つ。絶えざるリサーチのプロセスを通し、真と偽正と邪、美と醜を差別し、それを正確厳密に認識することが学の本質である。学問は人類の福祉にとって絶対必要である上、それ自体として尊重すべきことは勿論であるが、それは人生の凡てではない。差別の座を流れ差別の世界を超越した愛の精神（基督教）が無くては人生は暗になる。愛は、愛としては、差別を知らない。「罪なき者まず石を擲て。」愛は善悪、真偽、正邪を超越するというのは愛は善悪等を混同することではない。差別化が進めば進むほど愛も大きくならなくてはならない。悪を善と混同し、又は善悪を妥協することによってではなく、悪を悪と認識することによって知って愛を深くするのである。それを私は「基督教に基く教育」と信じている。差別を知らない愛は盲目の愛である。差別を知り、それを超越する愛を実践する学徒を社会に送り出すことが立教大学の使命である。

【医学部や法学部設置の計画があるか】

計画は無いが夢はある。広く言えば人類全体、具体的には、この六つの島に住む日本国民が物質的に豊富な生活をし、精神的に優秀な生き方をするのが私の理想である。かような社会を作るために必要な人材を養成するには現在の三学部を一層充実するほか他に多くの学科、学部を増設する必要がある。ただし夢を実現するには周到な計画と準備を要する。人気取り的事業や、思いつきで仕事を始めることには私は反対である。

【現行施設改善の意思があるか】

大いにある。現行施設は甚だ不充分であるから速かに改善すべきである。ただし、これも圧力の強い方を先きにやるという方法ではなく、よく軽重緩急を考慮し、計画的に事を進めるべきである。

【一般教育部にもっと専門的学科目をおくべきであると思うが如何】

残念ながら即答出来ない。私は今まで自分の専門の学問とそれの周辺にある学問はある程度まで勉強して来たつもりだが教育学、学校行政等には研究がはなはだ不充分であった。就任以来勉強しているが自分自身の識見が出来たら関係者と相談し改善すべきことがあったら改善したいと思う。

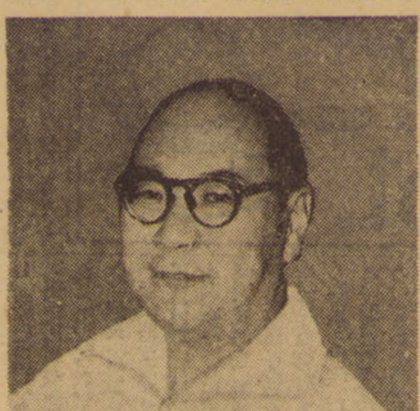
【再軍備、就職難等に関連し種々社会不安が感ぜられるが、それに対し学生としてとるべき態度如何】

再軍備問題は政治問題であるから総長としての意見というものは無い。個人としての意見表示は投票場において行う。学生は政治問題に関心を持つべきである。持ち方が問題である。再軍備にせよ他の如何なる問題にせよ、学生は（学生だけではなくすべての人がであるが、特に学生は）先入観念を固守しないで謙虚に、冷静に、一切の対立する議論に耳を傾け、附和雷同せず、独自の見識を持つべきである。反対論を圧迫するのは最も非学問的態度である。一般論として言えることは、自分の好きな言説より、自分の気に入らない言説により多く耳を傾ける習慣を養うことが大切である。

就職問題については学校に直接に責任がある。関係者を動員し、各界に働きかけ100％就職を目標として努力している。未だ足らぬところがあったら希望を申入れて欲しい。勿論、学校としては今年の就職だけではなく将来のことをも考えなくてはならない。無理をするとあとが続かない。どうしても教職員、学生が一体になって学生の質を一層向上し、社会に対し立教出身者への社会的信用を一層高めることが必要である。

【学生スポーツのあり方、特に女子学生にスポーツ奨励の意思があるか】

私はスポーツを「余技」であるとは思っていない、学生スポーツは大学教育の一環として教育上重要な機能を担当するものと信ずる。従って学校としては、一方、学生自治の伝統を尊重すると共に、第一項に述べた精神に基き、積極的に学生を指導訓育すべきものと思う。女子学生が活発なスポーツ活動をなすことは最も望ましい。現在その施設が欠けているとしたら、財政の許す限りの設備をなし女子がスポーツ活動を通し立教精神を発揚するよう努力したい。



経歴 明治卅四年四月十四日青森県八戸市に生る。大正十一年立教大学商科卒。大正十二年渡米、カールトン大学ジョンズ・ホプキンス大学、コロンビア大学に学び、コロンビア大学でドクター・オブ・フイロソフィーの学位を受く。昭和四年帰朝、本学教授に就任。昭和十八年本学教授を辞任、昭和廿一年迄国際連合協会の前身である日本外政協会の調査局長を勤めた。

昭和廿一年から極東国際軍事裁判いわゆる〃東京裁判〃で元首相東条英機の弁護人として法廷に立ちこの間満洲事変、支那事変から第二次大戦に到る歴史を、当時の当局者に直接当って調査、大戦開始の原因を究明。

昭和廿三年より正式に弁護士を開業、この間津田塾大学教授、中央大学法学部、同大学大学院の講師を歴任。現在本学理事。

国際法の権威として知られ、先般のソ連のスパイ事件として世間をにぎわしたクリコフ事件に於ては氏の国際法上の鑑定を求められた。

著書には「米国戦争権論」（昭和十五年・有斐閣）「政治と教育」（昭和十六年・小学館）「大東亜国際法叢書」（昭和十六年・有斐閣）「アメリカ憲法解説」（昭和廿二年・国連協会）「万邦共栄論」（昭和二十年・文松堂）「米国汎米政策の基調」（昭和十九年・日本外政協会）その他があり、法律関係の雑誌に発表の論文が多数ある。五十四歳。

松下氏九代総長に

六月三十日理事会で

六月三十日午後四時より、ライブスナイダー記念館で次期院長選出に関する理事会が理事十二名出席のもとに開かれ、第九代立教学院長（総長）に松下正寿氏が選ばれた。理事会は司祭牧田理事の開会の祈りに始り、佐々木前総長の退席後理事長の選挙が行われ、八代斌助氏が理事長に再選された。ついで、総長選出に移り、理事長は選出方法について各理事にはかったところ、全員慎重協議の結果、理事長一任となって、理事長八代氏が松下正寿氏を推薦、理事会は満場一致で承認し午後六時散会した。出席した理事は松下正寿氏、佐伯松三郎氏、佐野正綱氏、山縣正勝氏、ヘンリー・F・バッド氏、河西太一郎氏、名倉齊作氏、橋本寛敏氏、八代斌助氏、佐々木順三氏、呉興氏、中川重雄氏の十二名で、佐々木順三氏は退席後出席せず、菅円吉氏は渡英中で欠席となった。

前立教学院々長佐々木順三氏の満期により後任決定が理事会において急がれていたが、六月三十日に松下正寿氏が新総長に選ばれた。佐々木順三氏は過去八年間総長をつとめ、三選されるなら十二年間連続となるので長過ぎると危惧する向きもあり、佐々木前総長自身も健康の不安を側近者に語っていたのであるが六月二十三日の理事会までは適当な候補者も見当らず結局三選されるものと思われていた。しかし、総長選挙を予定していた六月二十三日には総長の決定が行なわれず、同月三十日にのばされその間、佐々木氏の勇退の決意は不動のものとなった。選出方法が対立候補を立てず、いわゆる選挙という形式をとらずに推薦決定としたことには、種々問題となる点もあるが、これも学校当局のいわゆる〃立教らしさ〃というものであろう。松下総長の夫人は元本学総長元田作之進氏令嬢である。氏の本学との関係は本学商科出身でのちに米国に留学、コロンビヤ大学に学び、帰国後本学の教授を勤めたことがある。その点からこのたびの就任も他大学における同窓会の発言増大の風潮と同一視されている。

新学生部長に森脇教授

岩井助教授副部長に内定

七月十五日小川徳治前学生部長より松下総長のもとに辞表の提出があり、総長はこれを受理、同月十八日後任学生部長に文学部社会学科森脇要教授を任命した。前野口定男学生部副部長の後任には岩井祐彦文学部助教授が内定している。

学生側にたって問題を解決

森脇教授は就任の抱負ならびに今後の方針を次の様に述べた。

今後色々の問題が起きた場合、学生部はどこ迄も学生側の立場に立脚して問題を処理していきたいと思っている。その為出来るだけ話合の場を持つ様に努力するが、なるたけ諸君もどしどし相談に来てほしい。

（写真は森脇学生部長）

新野球部長に中川重雄氏（理学部）

当分コーチ團制を採用

本学野球部は、予て砂押監督の方針等に関し意見対立し関係者間に感情の疎隔を来たしていたが、野球部先輩団はこれを憂慮し七月下旬より学校側と解決にのり出した。然るに野球部員の一部強硬派は、小川部長、砂押監督の不信任を表明、練習も延期される状況となったが、解決遅延のため練習のおくれるのを憂えた砂押監督は辞意を表明、八月二十二日正式に辞表を松下総長に提出した。この間現役は監督の意志を了して、甲府市で練習を開始している。二十六日先輩団総会席上で学校側から経過報告が行われ、砂押監督の辞意を止むを得ぬこととして受理を決定。翌二十九日協議の結果当分コーチ団制を採用左の人事を決定した。

部長 中川重雄
コーチ団 辻猛
小沢正二
山下勝
相談役 網岡修三
藤田寛治

人事異動

七月一日 奥野徹
教授に任じ一般教育部勤務を命ずる、保健体育課兼務を命ずる

七月一八日 金子尚一
渉外課長を命ずる

七月一八日 森脇要
学生部長兼務を命ずる

七月一五日 小川徳治
願により学生部長を解く

七月一九日 野口定男
願により学生部副部長および学生部補導課長を解く

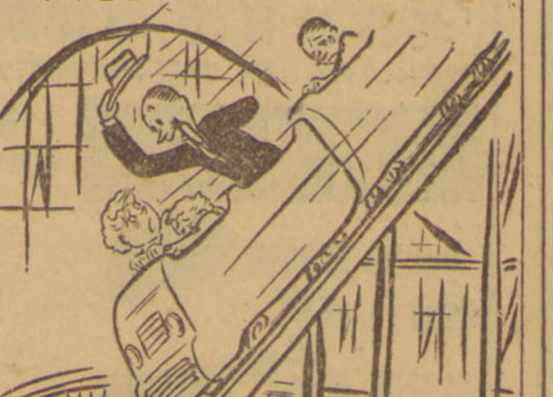
八月二日 小川徳治
野球部長を解く

八月二六日 砂押邦信
願により体育会野球部監督を解く

セーラーペン子
ペン先が磨耗しない
Sailor

セーラー万年筆
十四金ペン付 紳士用800円 学生用600円 方々
日本工業規格品
金張ペン付 850円より 耐蝕ペン付 250円より

図書出版・印刷一般
表現社
営業所 東京都板橋区板橋町10の2867
電話板橋 (96) 4236

〃アサヒビールはあなたのビールです〃


廣汎な学識に期待

松下君の総長就任を祝して

清瀬一郎

写真は清瀬一郎氏

松下正寿君が母校である大学に復帰されて、総長の任務をとられる事については種々なる意味で誠に適当と思います。同君の為にも立教大学の為にも心から欣賀を述べたいのであります。

松下君の人となりは私が紹介するよりも、皆様が既に良く御承知の事であります。松下君は初めて弁護士の職業をとられたのは去る昭和二十一年以来の極東国際軍事裁判に於て私と共に戦犯被告・東條英機元大将の為に法廷に立たれたのが初めてであります。

今では過去の一種話にすぎませんがあの当時の世相として相当の信念がなければ出来ない仕事であります。

戦災の直後で東京の全部は灰燼に帰し、国民の思想は動揺し、戦犯被告に対しては、轟々たる非難の声が上つて居りました。

この際に、国民の恨みの的となつている人を弁護すると言う事はよほどの信念を必要と致します。かくのごとき場合に被告に対する防禦を必要とすると云うのが弁護士道であります。弁護士の道はキリスト教の人道主義と相通ずる物があるのであります。

如何なる被告でも、その罪は恨んでもその人を恨むべきものではありません。この職業は人間個人に対する徹底的な愛があつて初めて勤まるものであつて、一身の利害を打算しては行われるものではありません。私自身は敗戦国の弁護士でありますからこれは当然の事でありますが、新たに法曹界に入られた松下君が、まず第一のケースとしてこれを担当せられたことに同君の真面目を見出す事が出来ます。

同裁判に於て我々は被告自身を無罪とする事には成功しませんでしたが、しかし東條其の他の被告に死刑を免がれようと云うので、弁明にこれつとめたのではありません。このたびはあの時の戦争に於ける日本の立場を明かにし、今後の人類歴史に於ける第二次世界大戦の意義を記録し、後日公正なる判断を下す事を得しめる為の史実を供せんとするのにありました。被告諸氏に充分にこの機会を与うる事には我々は成功して居ります。その為、昭和二十三年十二月二十三日にはこれら被告は絞刑として死についたのであります。

松下君は尋常一様の弁護士の如くに民法や刑法のみに捉われることなく、眼界は一層広く国際法や政治哲学におよび、又文明史的な観察眼を持つて居られます。学校卒業以来、助教授とか教授とか、学長とか云うコースを次第送りに昇つて就任する総長と云うのも一つの型でありましょうが、又松下君の如く法曹界の激浪を泳ぎ抜いて人間生活の一切を自分の任を持つて体験した人がこの職に就くのも又他の一つの型でありましょう。かつてアイゼンハウアー元帥が、終戦直後に大学総長の任に就きました。松下総長は丁度この型の総長として成功せられる事に疑いを持ちません。

同君の御就任を心から祝すのは、以上の理由によるのであります。

【筆者　清瀬一郎氏は弁護士生活四十八年。五・一五事件、極東国際軍事裁判各主任弁護士。特に極東国際軍事裁判に於ては、松下新総長と共にA級被告を担当。大正九年以来、衆議院議員（但し、昭和二十一年より二十七年まで追放を受け政界を離る）現在は日本民主党政務調査会長】　文責恒士

私の回顧談

神の命で就任承諾

＝今後は過去の基礎の上に＝

回顧談？　そりやいいですね。

私が立教大学の総長になつたのは立教には友人がたくさんおり、知り合いの先生もいたんですよ。私はただ聖公会に所属していたんです。子供は二人立教にいたんですが私は直接立教には関係なかつたんです。丁度私が一高にいた時は校長がのちに文部大臣になつた橋田邦彦先生で私は学生部長というのを仰せつかつていましてね。のちに安倍能成先生（現学習院長）が一高校長になつた時は学生部長を他人に譲り、それとともに同校の寮を追われてしまいました。

のちに妙な関係で今の私邸に入つたのです。この建物は当時、神学院々長の邸宅だつたんです。落碍く家のなくなつた私は結局、神学院の講師になつて英語を二時間教えましてね。月給が二千円、家賃が百円だから差引八十円を家賃として払えばよかつたわけ。戦争中は都立高校長となつたんです。時々立教の中を散歩しましたがそんな時、小使さんは私を西郷さんと思つたらしい。

戦争が終つて右翼的な人々はパージになつたんです。戦後初の総長を誰にするかという時、丁度GHQから「立教は建学の精神を持たねばならぬ」という直接命令が来たので聖公会は唯一の重大な問題として、時の理事長松崎一雄氏（大正15商科卒現森永製品社長）が中心になつて探したんですが、聖公会関係で理事の人ということに立教学院々則で決められている。そこで幾度も考えたが結局、僕に白羽の矢が立つて来た。二十年の十一月から翌年の正月にかけて私の兄（ユーモア作家佐々木邦氏）を通して話があつた。私は官立学校の校長だから出来ないと断つた。それから五月頃になつて私の友人南原さん（前東大総長）が僕に「立教の総長にならんか？」というのでそういう意志がないと断つたんです。ところが彼は松崎理事長から依頼されて来たのだといつて亦やつて来た。「君より他にないから是非頼む」というので彼は子供の時分からの恩師ではあるし又、神からの命であると思い総長就任を承諾したようなわけです。

当時GHQの意見は強く、いろいろパージがあつた。立教でも一部の学生をパージしたがこれについて文部省を通じてGHQからパージまかりならんという通知が来たんですよ。私がGHQを訪れてみると実は下級将校が指令を出していたのでその将校と論争をしましたよ。結局、学校のことは学校のことでこの将校のいうことは個人的意見ということになつて私の主張どおりパージが出来たという逸話もありますよ。

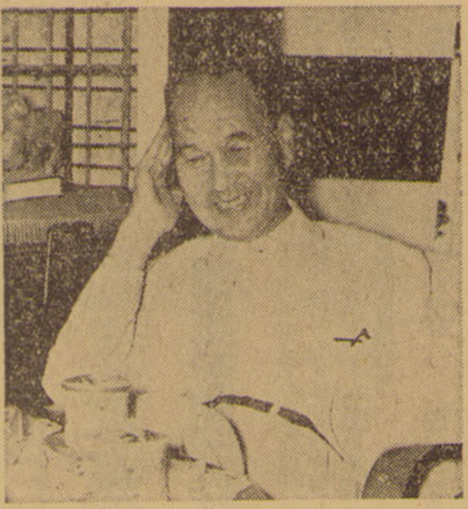
それというのも立教だというので当時、米国の教会や、ポールラッシユ氏、オーバートン氏（米国領事）が援助してくれたのは有難かつたですね。のちに例の下級将校は「佐々木はけしからんから監獄に入れてしまえ」と怒つていたそうですよ。

ともあれ立教に財力その他の点では非力だけれども他大学の持つていない長所をもつようになつたことは喜ばしいことですよ。立教はここに漸く基礎が出来たと思う。再建という使命を私は全うしたと思う。今後はこの基礎の上に立つて識見豊かな活動力のある働き盛りの人が立教を背負つて立つべきと思う。私はこういう理由から老骨を鞭打つてまで次期総長を買つて出るべきでないと思つて改選前、理事長に辞退を申出たんです。

今後は二十一年五月から続けているキリスト教文学を教えますよ。

先日、静岡高時代の同僚である永井氏が来て次の俳句を詠みましたよ。

〃かみしもを脱いでゆかたの肌ざわり〃



（写真は自宅でくつろぐ佐々木前総長）

学園の民主化と学問の向上を

級委員長　山中憲一

私は、新しく総長に就任された松下先生にはいままで間接的にもそ接したことがありませんので、その人柄、考えについては何も分りません。しかし、私も、他の学生にしても新総長に対して何かの明るい希望と新しい期待をいだいています。いままでの学校行政、教育方針に多かれ少なかれ不満と疑問をもつている学生が少なからずおりますしばしば保護されて来た、学生の自主的行事が少なからざる障害につきあたつた経験をもつています。新総長えの期待は、この辺にあると思います。つまり、学園を民主化し、学問の向上と、民主主義の気風と人間を尊重する立派な人格者を育てあげる教育方針をもつてのぞまれることです。

この観点からすれば、従来の仕方を革新しなければならない問題は多くあります。なかでも、学生の自治活動の自由、民主的自由、権利の尊重であり、さらに勉学研究の設備、条件の改善、充実であります。

最後に新総長が、学内の民主的気風を守り育てて行かれるよう望みます。

ジャズ喫茶
五大通り
KOOL

新声

投稿規定　六百字以内，学年氏名明記の上新聞学会宛，紙上匿名可

松下新総長に望む

夏休みに入つて二、三日した夕刊紙に、本学の新総長に松下正寿氏が就任されたことが報じられていた。学内新聞がた々木前総長の三選を予想していただけに、我々一般学生としては率直に云つて驚きと意外の念にうたれたものである。きけば新総長松下氏は本学の出身であるそうで、この点我々立教ボーイたるもの欣喜に耐えない。なんといつても本学の学窓に学んだO・Bは、本学の建学精神、学風、伝統といつたものに精通し、又身についたものとして人格の中に包含されている事であろう。この意味で松下氏の総長就任を歓迎するのであるが、全くのうわさ話に過ぎぬかも知れぬが「松下は右翼だ。」という声を耳にはさんで不安を感じた。なる程それを裏づける如く、新聞には東條の弁護人を勤めたとある。しかし冷静に考えて見ると何も東條の弁護をしたという事で、反動だ、右翼だとは云えないと考え直して見たものの、うわさが耳に残るし、また破防法の支持者とも聞いている。

とかく学問には政治思想は無縁とされ、又そうあるべきだとされている。新総長が個人的に右翼であろうが何んであろうがかまわぬが、本学を統轄する総長の座についた以上、公的立場に於て無色であることを望む。これが全くの杞憂に過ぎぬことを念じつつ。

又、新総長が本学の学生であつた時代と、我々学生の生きる今日との間に大きな差があるという点心されたい。「新しき皮袋には…」とある如く、現代に生きる我々学生の姿を理解して頂きたい。

（Y・O生）

親しみのある学生部に

学生部長がかわつたというニュースを聞いた。松下新総長の就任に伴つて、新学生部長のそれと、夏休みを機会に学内に新鮮な風がみなぎることをまず望みたい。それにしても今まで学生部というとあまりわれわれに関係がないような気がする。正直にいつて、学生部が一体何をしているのか解らない。ある人に「学生部つて何をするところか」と聞いたら「知らないけど、懲罰するところだろう」といつた。学生部に呼ばれたというとすぐ「叱られる」という先入観がある。だから学生部は何となく「こわい」という気が先に立つ。今後は学生とともに歩み、学生のよき友であつてほしい。叱られる所だけでなく、ほめられる場所としての、暖かいふん囲気の場も作つてもらいたい。それから従来の形式的なことだけに終つてしまう学生部なら意味ない。例えば服装に関して、男子は夏、白ワイシヤツに黒ズボンで女子はスリープレスはいけないと掲示が出る。しかし実際には替ズボンをはいてきても、あるかないかわからない袖のフレンチを着てきても何ともいわれない。それどころか、学生の身になつてみれば、この暑いのに、御苦労様に黒ズボンをはかせる有名無実の規則は、愚の骨頂というものだ。もつと学生のためにわれわれの身になつて考えてくれる学生部として再出発してもらいたい。

（一女子学生）

ダイヤモンド理容館
池袋　聚楽並ビ

日活日活　信用ある日活映画　日活日活日活日活日活日活日活日活日活日活日
「名作は日活」の御期待に応える自信作！
誠実に、その妻を愛しながら、已の誠実をさえ信じることができなかつた男の悲劇！
夏目漱石の
こころ
・監督・市川崑
脚本・猪股勝人　長谷部慶治
森雅之
新珠三千代
三橋達也
安井昌二
北林谷栄
田村秋子
・美術考証・木村荘八
・岩波文庫版・
K
日活日活日活日活日活日活日

――年一度！空前最高――
9月のライン・アツプ！
4―10　総天然色　ユリシーズ（文部省選定）
11―13　想い出
14―20　総天然色　ヴエラクルス
21―27　総天然色　裏窓
低料金40円均一劇場
（但し特別興業は50円）
池袋東口　日勝地下　TEL(97)1977・9063